

報告

東北支部研究会の報告

寺 蘭 淳 也（会津大学）

1. はじめに

2014 年 10 月 18 日（土）～19 日（日）、山形市の山形大学理学部にて、天文教育普及研究会の東北支部研究会が開催された。

山形はこの時期、すでに全国的な知名度を誇るようになった「芋煮」の季節で、私も会場に移動する途中で、家々の庭から芋煮の湯気が上がるのをあちこちでみるようになった。

また、この 2 日間はちょうど山形大学の学園祭の日と重なっており、売り子の声や音楽が遠くから流れてくる、にぎやかな中での開催となった。

両日合わせて 18 名の出席者があり、和気藹々とした会となった。主に東北、それも南東北(福島・宮城・山形)の出席者が多かったが、中には東京からの参加者もいらした。

2. プログラム

今回の東北支部研究会は、特にテーマを定めることなく、各自が行っている活動についての発表が行われた。以下、プログラムを掲載する。

<10 月 18 日(土)>

○記念講演

市民による星空案内の活動と天文教育と科学文化形成について

柴田晋平氏（山形大学）

○実践報告

座長：寺蘭淳也（会津大学）

1. 「星空案内人の集い」のご紹介

吉田 裕

2. 「天文愛好者」vs「天文素人」その永遠の対立について（天教東北支部会バージョン）

比嘉 義裕

3. 分野間、立場間の壁を乗り越えて伝えるには？

齊藤啓子

4. バリアフリー教材プロジェクト～手話版 DVD の製作～

嶺重 慎

5. 国立天文台水沢の広報活動について

舟山 弘志

<10 月 19 日（日）>

6. 最近の天文イベントとネット上での関心の関係をさぐる ～月探査情報ステーションのアクセス動向からみえる、ネット上での天文の最新動向～

寺 蘭 淳 也

7. 系外惑星系命名キャンペーンに関する教育活動の実施報告

津村 耕司

8. 北海道アイヌの独自の星座をテーマにした天文普及の実績

山内 銘宮子

9. 高校生の理科好きの現状

伊藤 芳春

10. 高校生対象の Z 星研究調査隊の実施状況

亀谷 収

なお、実践報告は講演が 20 分、質疑応答が 10 分の形で行われた。

また、18 日の 1 日目終了後には、会場となった山形大学理学部に併設されているやまがた天文台の見学が行われた。柴田晋平さんが案内をして下さり、天文台設備や、実際の望

遠鏡での星空観察なども実施した。残念ながら雲が多い天候であったことと、すぐ下で明かりをつけて学園祭を開いていてこともあり、コンディションとしてはよくなかったのだが、時折見える星などの姿には、見学者から歓声が上がった。

さらにそのあとは場所を代えての懇親会で、出席者一同が自己紹介をしたり、名刺交換をするなど、まさに懇親の場となった。山形の地酒や、お皿で提供された芋煮などのご当地の料理も口をなめらかにすることに役立ったようである。

3. 支部研究会を振り返って

今回の支部研究会は、前半のテーマが「天文の普及への道のり」(とりわけ、あまり天文に興味を持たない層へのアプローチ)、後半が「実践報告」(実際に天文の教育普及を行っている人たちのレポート)という形にまとめられる。

いずれの講演にも出席者の関心は高く、質疑応答は非常に活発であった。しばしば時間オーバーとなってしまうほどのやりとりで、多くの人がこの問題に関心を抱いているということを改めて認識した次第である。

また、東北という地域の特長にも気をつける必要がある。まず、東北と一言でいっても非常に広く、青森と福島では新幹線を使ってさえ2時間以上かかってしまう。広い地域に分かれて活動をしている人たちのいかにネットワークとして結びつけていくか、今後の支部研究会の大きなテーマになって来るであろう。

また、東北ならではの問題として、冬の天候の問題がある。冬は日本海側の地域で天候が悪く、なかなか星空を直接見てもらう機会が少なくなる。その分直接的な天文情報の提供はプラネタリウムなどが効果的なのだが、全体的にプラネタリウムの分布は太平洋側に

集中している。

実際、今回の出席者も、開催場所の問題もあるにしても南東北に集中してしまっている。このところ南東北での支部研究会開催が多かったので、2015年は北東北での開催ができるようにしていければと思う。来年に向けて課題として進めていきたい。

最後に、今回の支部研究会に際して、会場の提供、ご準備などにご尽力をいただいた山形大学の柴田晋平様、また会の準備を一手に引き受けて下さった国立天文台の亀谷收様に、この場を借りてお礼を申し上げたい。



図1 懇親会後の集合写真

寺 蘭 淳也